リモセン技術を活用する水稲生産調整現地確認簡略化法の開発

現地確認の現状と問題点

- ○梅雨時に実施するため降雨または炎暑という劣悪な作業環境
- ○確認すべき圃場を目視で探索するため探し忘れが発生して非効率
- ○足場の悪い圃場に入って確認作業を行うため非効率
- ○部分転作等調査困難な圃場が多発
- ○農業従事者の高齢化に伴い、調査員も高齢化

これらの結果、現行の現地確認作業の実施の困難性の増大

航空機からのリモートセンシング

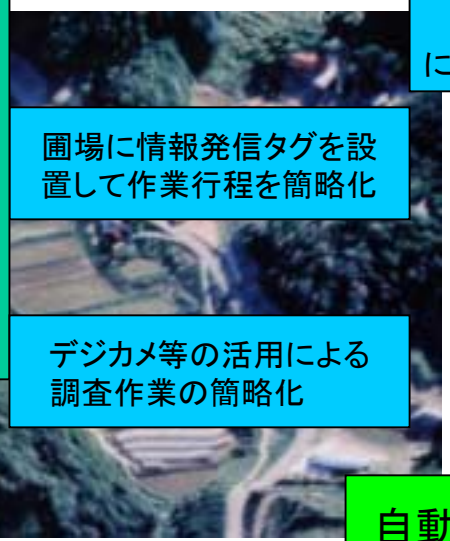
撮影データの多目的利用技術の開発

○現地確認のリモセンによる代替化

○リモセンの多目的利用によるコストの一層の削減

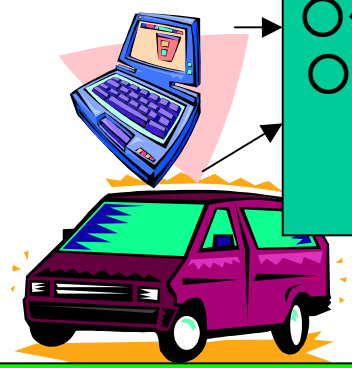
転作申請データのGIS化

モバイル型GISによる調査の電子化



圃場に情報発信タグを設置して作業行程を簡略化

デジカメ等の活用による調査作業の簡略化



自動車に乗ったままで情報収集

○作業環境の改善
○圃場の提示と調査の簡易化による作業効率向上

○現地の実情に合わせた最適組合せの検討

市町村へ導入

○現地確認における諸問題の解決
○市町村が実施する現地確認作業の効率化
○現場担当者の負担軽減